

海岸工学委員会
080925, 土木学会
議事録：諏訪義雄

- 前回議事録の確認
- 報告事項
- 海岸工学論文集第55巻 発刊準備状況について（間瀬）定価5000円、著者負担金2万円、J-STAGE（森）
- 海岸工学論文賞候補論文について（青木）
- 第55回海岸工学講演会の準備状況について（由比）
- 第56回及び第57回海岸工学講演会の開催（会場など）について（横木、後藤）
- Coastal Engineering Journal について
 - ・ 査読状況（柴山）、英文論文集（水谷）、JAMSTEC中西記念賞（5万円/年、佐藤）
- 研究小委員会等の活動について（沿岸域、津波、数値波動、温暖化適応策、広報各小委員長）
 - ・ 重点研究課題の進捗状況（津波小委：今村、越村）
- 第45回水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について（岡安）
- その他
 - ・ 会長特別委「地球温暖化特別委」報告
 - ・ 国際侵食学会（東京、11月5-7日）
 - ・ Apac 2009(Singapore, 2009年10月) **アブストラクト12月31日**
 - ・ Coastal Dynamics 2009(Toranomon, 2009年9月7-11日) **アブストラクト12月22日**
 - ・ [Breakwaters\(2009 Sep 16-18, Edinburgh\)](#)
 - ・ 2008 ・ 幹事会 9/25 14:00- , 委員会11/12 18:00-（編集小委員長交替）

来年度の編集・出版形態

- (1) 二段階査読を維持，3月アブスト受付 - 10月出版
- (2) 二段階ともに電子査読化，主査制の導入
(主査 = 幹事，副査 = 編小委非幹事 + 第一段査読者)
- (3) 査読小委を廃止し編集小委に一本化，最終判断は幹事会の責任
- (4) 校正は著者校正1回のみ
- (5) 電子ジャーナル実現まで現在の品質での出版（カラー不可）を維持
- (6) 編集小委内に，電子査読WGと出版形態WGを設置
後藤，武若，森 間瀬，重松，小林，佐々木，八木
- (7) 海岸工学論文賞（3編程度）を創設，受賞論文はC E Jに推薦
- (8) 技術委託費約50万円 / 年以下を想定
(株)ジュオン

→ 11月の講演会(委員会承認後)に概要をアナウンス

来年度出版形態の提案

現在の形態を維持(モノクロ, CD なし)

現在の形態(モノクロ) + CD

カラーPDF印刷 + CD(著者のファイルをそのまま用いる)

2頁アブストラクト(第1段審査で用いたもの)をカラーPDF印刷 + CD
(著者のファイルをそのまま用いる)

-1 2頁アブストラクト(著者名、所属が必要なのでその分修正する)をカラーPDF印刷 + カラーPDFのCD

-2 2頁アブストラクト(著者名、所属が必要なのでその分修正する)を白黒PDF印刷 + カラーPDFのCD

-3 本論文(最終原稿)1ページを白黒PDF印刷 + カラーPDFのCD

-4 目次(タイトル、著者)を印刷 + カラーPDFのCD

カラーPDF のCD のみ(著者のファイルをそのまま用いる)

海講時にアンケートをとってもよいが、結果はばらつく?
詳細は来年度投稿時まで決定する。

第56回海岸工学講演会の開催について

(茨城大学 横木裕宗)

第56回海岸工学講演会実行委員会の立ち上げ

メンバー(敬称略): 三村(茨城大), 横木, 信岡(茨城大), 武若, 庄司(筑波大), 栗山(港空研), 諏訪(国総研), 中山(水工研), 半沢, 松本(不動テトラ), 関本, 金山(五洋), 松浦, 寺家, + 1(茨城県)

第1回実行委員会開催(2008年3月26日 15:30 ~ 17:00 於 茨城大学水戸キャンパス)

開催時期: 2009年11月18日(水) ~ 20日(金)

会場: 茨城県立県民文化センター(茨城県水戸市, 予約済み)

(小ホール(460), 集会室(120, 150, 100, 60)の5会場 + 集会室(10, 10, 24, 10))

要検討事項:

- (1) 見学コース(2コースを検討中)
- (2) 懇親会会場(水戸駅周辺のホテルなど)
- (3) 予算・援助制度(会議開催誘致制度などがない)

今後の予定

- ・会場の詳細, 予算
- ・見学コースおよび実施体制, 日程など

Report

COASTAL ENGINEERING JOURNAL

Volume 50 · No. 2 · June 2008
CONTENTS

Statistical Modeling of a Pressure Gradients on a Barred Beach.....123

T Suzuki, S Shin, N Mori and D T Cox

Numerical Modeling of Wave Transformation on Muddy Coasts.....143

M Soltanpour, A Oveysy and T Shibayama

Takagi-Sugeno Fuzzy Approach in Rock Armored Slopes for 2% Wave Runup Estimation.....161

T Erdik and M E Savci

Development of CMPS Method for Accurate Water-Surface Tracking in Breaking Waves.....179

A Khayyer and H Gotoh

Tsunami Scour Around a Square Structure.....209

T Nakamura, Y Kuramitsu and N Mizutani

Volume 50 · No. 3 · September 2008

CONTENTS

- Longshore Migration of Shoreline Mega-cusps Observed with X-band Radar.....247
E M. Galal and S Takewaka
- Modeling of Mud Accumulation and Bed Characteristics in Tokyo Bay.....277
T Rasmeemasmuang and J Sasaki
- Parameterization of Wave Attenuation in Muddy Beds and Implication on Coastal Structures.....309
R. Rajesh Kumar, A Raturi, B. Prasad Kumar, A Bhar, D.Bala Subrahmanyam and F Jose
- Time-varying Tsunami Ability of Coastal Forests Based on Forest Growth Models.....325
T Asano
- A Turbulent and Suspended Sediment Transport Model for Plunging Breakers.....349
B Ontowirjo and A Mano

2006年：国内 6海外24 (Australia 1, China 4, India 2, Iran 2, Italy 2, Korea 3, Kuwait 1, Portugal 1, South Africa 1, Taiwan 2, Thailand 2, UAE 1, USA 1, Vietnam 1)

2007年：国内 20海外25 (Australia 1, Bangladesh 1, China 1, India 5, Indonesia 1, Iran 1, Korea 5, Netherlands 1, Poland 1, Spain 1, Taiwan 1, Thailand 1, Turkey 3, USA 2)

2008年：国内 6海外24 (Canada 1, China 1, China(Hong Kong) 1, India 3, Indonesia 1, Iran 3, Korea 1, Malaysia 1, Netherlands 1, Poland 1, Thailand 1, Turkey 4, USA 5)

購読状況(2007年9月末日現在) Total 141

日本 50, USA 21, Netherlands 17, UK 9, China 7, Taiwan 5, Italy 5, Australia 4, France 3, India 3, Korea 3, Spain 3, Canada 2, Denmark 1, Germany 1, Iran 1, Malaysia 1, Norway 1, Poland 1, Portugal 1, Singapore 1, Thailand 1)

テクニカルノート

Technical note : Technical notes present original and practically useful information, or concisely presented research results. Maximum page is 10pages in final format.

編集方法の変更

Proposal for Switching CEJ Review to Editorial Manager

Dr. Mori

「津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会」

委員長：今村文彦 副委員長：菅野高弘・富田孝史

幹事長：藤間功司

委員数：61名

期間：2003.7~2009.6

活動概要

1) 目的

2004年12月にスマトラ沖地震・インド洋津波による大災害が発生し、我が国においても南海トラフでの地震および津波の被害が懸念される中、被害推定や軽減技術の開発は不可欠の検討項目となっている。本小委員会では、土木学会での横断的な組織を作り、津波予測技術の開発（発生：地震、地滑り、伝播、遡上）、被害推定・軽減技術（浸水域、流体力、家屋強度、インフラ、避難・情報）の開発を進める枠組みをつくることとする。

2) 活動概要

各メンバーは以下の分科会に所属（複数可）し、研究テーマを実施する。

第1分科会「波力」（主査：藤間功司）；第2分科会「土木構造物の津波防災デザイン」（主査：富田孝史）；第3分科会「土砂移動モデル」（主査：高橋智幸）；第4分科会「漂流物」（主査：水谷法美）；第5分科会「被害」（主査：越村俊一）；第6分科会「防災教育」（主査：原田賢治）；第7分科会「調査体制」（主査：今村文彦）

平成19年度活動報告

1) 委員会・WG活動等

・第1回委員会 H19/5/22(火) 土木学会にて

今後の研究テーマの募集，ソロモン諸島津波調査報告

・第2回委員会 H19/8/1(水) 海運クラブにて 新WGの決定

WG1(主査：藤間)：波力(実験データの整理と各理論やモデルの適用範囲)

WG2(主査：富田)：土木構造物の津波防災デザイン(橋，道路，鉄道，河川，下水処理場，発電所など)

WG3(主査：高橋)：土砂移動モデル(侵食と堆積)

WG4(主査：水谷)：漂流物の評価と対策

WG5(主査：越村)：直接被害(被害関数)と間接被害(復旧に長期間必要)，環境への影響評価(生態系の破壊，油汚染など)

WG6(主査：原田)：防災教育(教材の出版)とアンケート調査

WG7(主査：今村)：調査体制

・第3回委員会 H19/11/8(木) 宮崎観光ホテルにて 新WGの活動報告など

2) 行事等

・ACECC津波TC 第4回アジア土木技術国際会議Special Forum(H19/6/26 台北)

平成20年度活動計画

1) 委員会・WG活動等の予定

委員会を3 - 4回程度行なう予定。7つのWGに別れ、それぞれの研究を実施。

平成20年度「重点研究課題（研究助成金）」申請書

代表研究者名：原田賢治(人と防災未来センター,主任研究員,32)(参画委員数:合計 13名)

(所属機関,役職,年齢を併記のこと)

研究課題名：津波防災教育体系の確立

研究の体制:

(所属機関,役職,年齢を併記のこと)

今村文彦(東北大学,教授,46)

富田孝史(港湾空港技術研究所,上席研究官,42)

原田賢治(人と防災未来センター,主任研究員,32)

諏訪清二(兵庫県立舞子高校,教諭,47)

安倍祥(社会安全研究所,研究員,28)

中野晋(徳島大学,准教授,52)

阿部郁男(東北大学工学研究科,共同研究員,40)

岡安章夫(東京海洋大学,教授,46)

藤間功司(防衛大学校,教授,47)

越村俊一(東北大学,准教授,35)

舩木伸江(神戸学院大学,講師,31)

後野正雄(大阪工業大学,教授,51)

山本吉道(東海大学,教授,51)

必要経費:合計 1,000 千円

80万円

内訳

人件費 : 0千円(内容)

資料費 : 0千円(内容)

調査費 : 0千円(内容)

旅費交通費: 600千円(内容:ワークショップ・打ち合わせ交通費他)

消耗品費 : 150千円(内容:ワークショップ関係文具他)

通信費 : 0千円(内容:)

印刷製本費: 200千円(内容:津波防災教育コンテンツ印刷費他)

借料・損料: 50千円(内容:会議室料他)

沿岸域研究連携推進小委員会 活動報告

委員長 豊橋技術科学大学 青木伸一

平成19年度第2回小委員会（宮崎観光ホテル）

平成19年11月8日（木）11時40分～12時40分

出席者：出席者：日比野，上野，片倉，田中，栗山，加藤，石川，堀口，佐々木，高木，西，小林，上月，灘岡，八木，細井，原，中山，青木

配布資料：海岸の安全利用に関する現地調査関連資料

議事：相良での調査結果の報告と議論

ヘッドランドの危険性について建設会社にも問い合わせあり 学会としての取組み必要

ヘッドランドでの事故を体験したことがある，構造物がある方が危ない，T型突堤の問題

現状のまとめ，性能項目，評価法などの提案をすべき

事故例のデータベース作り，事故のdetailを突き詰める必要あり

危険性の考え方（危険状態の変化が問題か？），実験データは多くあるのではないか？

第19回沿環連ジョイントシンポへの協力

テーマ「うみと環境教育」 世話人：今井一郎（京大院・農），清野聡子（東大院・総合文化）

開催日：2008年3月16日（日） 会場：京都大学農学部総合館大講義室

1. うみと環境教育：概論

うみ好きがつながる環境教育・生涯学習・市民調査 清野聡子（東大院・総合文化）

2. 大学における取組み

学生を連れてフィールドへ行こう 山下 洋（京大・フィールド研）

3. 自治体機関による取組み

大阪府水産技術センターにおける環境教育の現状と問題点 有山啓之（大阪環農水総研）

4. 博物館・水族館の取組み

宮島水族館における環境学習 石岡宏子（宮島水族館教育ボランティア）

琵琶湖博物館にとって環境教育とは何か？ 大塚泰介（琵琶湖博物館）

5. 民間会社の取組み

大阪湾における環境学習と地域のあり方 岩井克巳（日本ミクニヤ）

6. 漁協の取組み

大阪の海・街・川をめぐる環境教育 北村光弘（大阪市漁協）

7. NPOの取組み

海・人・地域をつなぐ中津干潟の環境学習 足利由紀子（水辺に遊ぶ会）

市民・ダイバーとして取り組む環境教育と大阪湾再生活動 関藤博史（CAN環境教育技術振興会）

市民調査による漂着ごみ問題への取組み 小島あずさ（JEAN/クリーンアップ全国事務局）

1. ウェブの移設（2008年1月より運用）

論文受付用にレンタルしているサーバ内に海岸工学委員会のページを移設。関係者が迅速に内容を更新できるよう、PukiWiki を用い運用。
ブラウザの種類により、表示上の問題がある（対応は困難）。

2. 海岸工学データベース移設の準備

現在、岐阜大学のサーバで運用されている海岸工学データベースを、海岸工学委員会のサーバに移設する準備を行っている。

Vol.54の論文データ(題目、著者、文書データ等)は、印刷業者より提供を受けた(有料、約10万円、1論文あたり約300円、経費がかかることについては委員会で承認済み)。納期が遅かったものの、契約内容に沿ってデータの作成・納品がなされた。

3. 海岸災害ライブラリに関する検討

幹事長より、海岸災害の情報を収集・整理・アーカイブすることについて検討の提案があった。メンバーで意見交換を行い、実現の可能性について検討中（進捗状況）。

地球温暖化適応策検討小委員会活動報告

1. 活動状況報告

(小委員長 横木裕宗)

(1) 第1回委員会 (2007年12月8日13:00～17:00 於東京大学工学部1号館, 28名出席)

話題提供: (1) IPCC第4次報告書の概要(横木), (2) 海岸保全技術の技術上の基準(栗山, 福濱), (3) 港湾施設の技術上の基準(河合, 関本), (4) 適応策の考え方(磯部)

(2) 第2回委員会 (2008年2月9日13:00～17:00 於東京大学工学部1号館, 34名出席)

話題提供: (1) 気候変動に対する海岸保全施設の戦略的対応に関する一考察(岡安), (2) 地球温暖化と津波(松富), (3) 海岸事業制度の概要(印藤), (4) 水関連災害分野における地球温暖化に伴う気候変動への適応策のあり方について(泊)

課題の整理・方向性の議論

海岸工学委員会からの提言案作成(予定)

メンバー, 議事録はウェブページで公開(広報小委員会へ依頼)

2. 副委員長および幹事団の提案

副委員長: 小林委員(岐阜大)

幹事: 【構造物担当】 関本委員(五洋建設), 岡安委員(東京海洋大)

【外力, 環境担当】 栗山委員(港空研), 武若委員(筑波大)

地球温暖化対策特別委員会報告

横木裕宗(リエゾン幹事)

委員会構成と幹事会構成

3つの小委員会(温暖化影響(三村),緩和対策(花木),適応策(山田))

地球環境委員会委員と幹事

+ 関連委員会からの推薦(海岸工学委から横木)

適応策小委員会には,海工委の適応策小委の横木,小林,関本,中山,岡安の各委員が参加
アドバイザリー会議(委員長(会長),小委員長,

幹事長(地球環境委員長),アドバイザー)

経過

シンポジウム開催(7/2)

地球環境シンポジウムにて企画セッション(8/30,岡山大学)

調査研究委員会での地球温暖化問題に関する活動の紹介、土木学会における地球温暖化問題の
取り組みに対するパネルディスカッション

環境工学(藤原),環境システム(原沢),水工学(山下),海岸工学(横木),海洋開発(関本),エネ
ルギー(清水),コンサルタント(真鍋),土木計画学(室町),地球環境(米田)

全国大会 研究討論会(9/10,東北大学)

石井弓夫、三村信男、花木啓祐、沖大幹

中間報告書について

3小委員会から原稿 ホームページ

修正・加筆などの意見聴取:10月3日まで。(委員会メンバー,適応策小委メンバーへ回覧?)

中間報告掲載ホームページ <http://risk.env.kyoto-u.ac.jp/globalenv>

ID:global パスワード:env

最終報告書

3小委を組み直して,最終報告書WGを作り対応する。(予定)

期 日：2007年8月5日(火)～6日(水)

場 所：東京大学工学部(本郷キャンパス)2号館

Bコーステーマ：気候変動の海岸防災への影響(仮題)

プログラムおよび講演者(予定)

1日目：気候変動と外力変動

1. 地球温暖化の現状とIPCC報告 茨城大・三村先生

2. 最新GCMと予測の不確定性 東大・阿部先生

3. 海水温の上昇と台風の巨大化 電中研・筒井氏

4. 海面変動・波浪変化のモニタリング 徳島大・中野先生

2日目：気候変動と防災対策

5. 日本における沿岸災害の歴史 沿岸センター・高山先生

6. 地球温暖化と港湾施設の安全性 港空研・河合氏

7. 沿岸域におけるリスクの経済評価 名城大学大野先生

8. 地球温暖化に対する省庁の取り組み 国土交通省海洋開発
官 泊氏

APAC2009
in Singapore

Call for abstracts: 19th of September 2008

Deadline of abstracts: 31st of December 2008

Conference: 13th-16th October 2009

12月22日までにCoastal Dynamics2009のアブストラクトを、12月31日までにAPAC2009のアブストラクトを率先して投稿するようにお願いします。

<http://www.apac2009.org/>

CD'09現地見学会(2009年9月11日(金))

コース:茅ヶ崎海岸,港空研

8:30 虎ノ門パストラル発

10:00 茅ヶ崎・藤沢海岸

茅ヶ崎海岸柳島地区(消波堤による海岸保全:日本における従来の海岸保全方法)

茅ヶ崎海岸中海岸地区(ダムからのサンドバイパスとヘッドランドによる海岸保全:日本における新しい海岸保全方法)

藤沢海岸(日本有数の海水浴場における高潮・津波対策,防護と利用の調和)

11:30 藤沢海岸発:車中にてサンドイッチ等(1,000円程度)

13:00 港空研:大規模波動水槽等見学

15:00 港空研発

16:30 虎ノ門パストラル着

